

令和4年3月28日

報道機関 各位

薬剤師向けに新規リカレント教育を実施 ～「電卓を使った薬物投与設計を極めよう」～

このたび、富山大学薬学部・臨床薬学教育推進センターでは、卒後薬剤師を対象としたリカレント講習会を新たに実施します。地域薬剤師の技能強化を推進することを目的としており、受講者である薬剤師が薬物療法について自由に意見交換できるような「薬剤師主導型」の研修体制の提供を図るものです。本リカレント講習会は、全国的にも珍しい地域一体となった富山県独自の「薬薬薬連携」を目指す画期的な取り組みです。

つきましては、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

■ ポイント

- ・プロフェッショナルとしての実践的能力の習得を後押しするため、文部科学省が大学・専修学校等を活用したリカレント教育プログラムの充実化を推進していることを受け、本学薬学部では地域薬剤師の技能強化を支援する独自の取組みを企画しました。
- ・薬剤師は薬物治療モニタリング（以下 TDM）における中心的な役割を担い、投与設計や検査オーダー等を通じて薬物治療の支援を行っていますが、今回はこうした実践的技能の学び直し講座をオンライン配信にて開催します。

■ 概要

人生 100 年時代となりつつある現在、大学が果たすべき新たな役割として、学び直しを含む多様なニーズを抱えた幅広い年齢層の学習者を教育する体制の構築が挙げられます。こうした中、リカレント教育の開発・展開を促す施策が政府主導で進められています。なかでも文部科学省は、プロフェッショナルを対象としたリカレント教育プログラムの充実化を推進しています。こうした背景から本学薬学部では、令和3年4月に、臨床薬学教育推進センターに「グローバル・リレーション部門」を新たに設置し、リカレントプログラムを通じて地域薬剤師の技能強化を目指しています。

今回は「電卓を使った薬物投与設計を極めよう」をテーマに取り上げ、臨床薬物動態学の基礎から TDM に関連した内容で薬剤師向けのオンライン講座を開催します。

薬剤師養成課程には医学教育のような卒後の臨床研修が義務付けられておらず、多くの薬剤師は学部卒後から自己研鑽によって実践力を錬磨している実情があるため、知識・技能の修得には個人差や限界があります。すなわち、現状の学部教育においても、薬剤師の卒後教育（実践能力・技能向上）をカバーしきれない部分があります。これを補うリカレントプログラムにより、本学薬学部が薬剤師養成機関としての機能強化を図り、ハイレベル人材の育成に貢献してまいります。

■日時・内容 他

本プログラムでは、全6回の講習会と実践プログラム（オプション）を企画しました。

第1回 3月29日（火）午後7時～： TDMの基本概念

第2回 4月19日（火）午後7時～： 体内分布と臓器クリアランス

第3回 5月17日（火）午後7時～： 腎障害時の投与設計

第4回 6月14日（火）午後7時～： 1-コンパートメントモデルの応用

第5回 7月12日（火）午後7時～： 電卓による薬物体内動態の解釈

第6回 8月 9日（火）午後7時～： 注意を要する薬物のPK特性

実施責任者：富山大学薬学部臨床薬学教育推進センター 教授 田口雅登

■期待される成果

本リカレントプログラムを通じて、特にTDMへの関心が高まった参加者に対しては、実際に薬物血中濃度の測定・解析を体験する実践コースプログラム（オプション）を提供し、具体的な投与設計の技能を集中コースによって修得して頂く予定です。また、ごく微量の血液をろ紙に採取するdried blood spot（DBS）法を利用した試料を薬学部の研究室で分析する連携体制を整備します。高齢者にはハイリスクとなる一部の腎排泄型薬物の血中濃度を調べることで、薬剤性疾患のリスク回避を図ることが期待され、腎機能に応じた薬物投与調節に地域薬剤師が主体的に参画できる業務基盤の構築と、科学的根拠に基づく薬剤師業務の定着を支援します。

【用語解説】

・TDM：Therapeutic Drug Monitoring

治療薬物管理と呼ばれる薬剤業務の一つです。血中薬物濃度の測定、ならびにデータシミュレーション（解析）によって治療薬の効果や副作用の予測・回避を目的とするものです。

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学学術研究部薬学・和漢系 教授 田口雅登

TEL：076-434-7586（直通） Email：taguchi@pha.u-toyama.ac.jp